

ぎふ最前線 拠点長に聞

―就任の抱負を。

「JT(日本たばこ産業)は2022年に全国に計160カ所あった支社、支店を再編し、各都道府県に1支社ずつ設置する47支社体制に移行した。地域ごとに異なる事情や課題に対応するため、地元密着型の営業を目指すことを目的とした再編で、そつした方針にしっかりと対応できるよう、私の強みも生かして取り組みたい」

―強みを生かすとは。

「私自身が岐阜市の出身。地元ならではのネットワークを生かしていく。自ら営業にも出向き、顧客との関係を築きたい」

さいとうかつあき
齊藤克明氏

日本たばこ産業岐阜支社長

岐阜出身の強みを生かす

―業界の現状は。

「加熱式たばこのシェアが半数に迫る勢いで成長している。JTとしても、経営資源を加熱式に集中し、多様化する喫煙スタイルのニーズの変化に合わせた投資をし、新商品の開発や改良に取り組んでいる」

―分煙に向けた取り組みは。

「たばこ販売協同組合と連携

組む。

―地域貢献活動にはどう取り組む。



【略歴】 県岐阜商業高卒。1993年4月入社。大阪支社大阪第四支店長代理、北陸支社石川第二支店長、岐阜支社西部担当部長などを経て、4月から現職。趣味はゴルフ。岐阜市出身。50歳。

しながら行政などを回り、分煙を推進するため喫煙所の設置をお願いしている。屋外ではパー

ティションを置き、吸わない人や未成年に配慮できるように引き続き進めていく。吸う人と吸わない人が共存できるようにしていきたい」

か。

「中津川市にあるJTの森での活動が18年目に突入した。自治体や地域の協力を得ながら、間伐や草刈りに取り組んでいる。県農業フェスティバルでは、会場で市民参加型の清掃活動「ひろえび街が好きになる運動」を行い、環境美化に取り組んできた。今後も地域に根差した企業を目指し、環境美化や喫煙環境の整備を継続していきたい」

―どんな職場づくりを目指すか。

「仕事をやらされているという感覚ではなく、自分で考えて物事を進められるような環境にしたい。メンバーとしっかり会話、コミュニケーションを図りながらボトムアップ型で取り組む。互いに意見を言い合い、決めたことはしっかりと切り切る方針を進めたい」